





平井昌夫 著

三省堂

著者略歴

平井昌夫 (ひらい まさお)

言語学者。1908年、名古屋市に生まれる。1933年、東京大学文学部卒業、国立国語研究所所員・共立女子大学教授・東京学芸大学教授・愛知淑徳大学教授を歴任。現在、日本言語障害児教育研究会会长。

（主著）「文章表現法」「文章評価法」「話の事典」

「何でもことばの百科事典」「国語学習指導辞典」

1984年8月30日 初版発行



何でも 文章の百科事典

定価 1,700 円

1984年8月30日 第1刷発行

©
著者 平 井 昌 夫

発行者 株式会社 三省堂 代表者 守屋眞明

印刷者 三省堂印刷株式会社

発行所 株式会社 三省堂

〒101 東京都千代田区三崎町二丁目22番14号

電話 編集 (03) 230-9411

販売 (03) 230-9412

総務 (03) 230-9511

振替口座 東京 6-54300

〈文章の百科・624 pp.〉 Printed in Japan

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

装丁 菊地信義

ISBN4-385-13465-0

まえがき

文章を作ること全般の問題にわたってくわしく取りあげてみたいと思つていきました。このたびようやくその望みがかなえられました。本書は文章について何でもこまかに述べてあります。

よくわかるように書いたり話したり、正しく考えたりする技能を身につけていることは、現代のわれわれとしてたいせつな資格です。そして、このような技能は、小学校から大学にいたるまで、どんな専門の人であろうと、くり返し教育を受けなければ、なかなか上達できるものではありません。外国では、この三つの技能を大学でも念を入れて教育している国が多いようです。

わが国ではどうでしようか？ つづりかた教育が一部で叫ばれていますが、一般には文章を書くことをあまりやっていません。話すことなどは、学校で教えなくとも、自然にできるようになると、なん人かの教育者でさえ意見を述べています。正しく考える技能にいたっては、ほとんど取りあげられていません。第二次世界大戦後は、大学で論理学を教えるところがぐんとへってしまいました。論理学の学問は教える大学がいくつありますが、正しい論理の使い方は実技に類

すると思われているためか、学問の真髓を究めるとされている大学では教えないようです。

近ごろは、文章がひどく乱れていると新聞の学芸欄でもしばしば指摘されています。ところが、文章の亂れがひどく目立つ文学作品でも、何々文学賞が受けられることがあります。悪文を書いていても、新しい感覚だとほめられかねません。

現在および今後の文章は、わかりやすさを第一の条件としています。コミュニケーションといふことが強調されるようになって、わかりやすい文章、筋のとおった文章、論理的な文章こそが、名文だとされるようになってきました。飾りの多い、持つてまわった表現技巧をちらちら見せびらかす文章は、今の時代では名文とは呼ばれなくなってきた。文章観が、人が感心する美文から人にわかる名文へと変わってきたのです。

自分の感じたことや訴えたいことを話しコトバや書きコトバをとおして、ほかの人たちに理解してもらう必要は、われわれのだれにでもあることです。そして、このことは、だれにでもできなければ困ることです。文章を書くのは文章のタレントだけの仕事ではないといえます。だれでもができなければなりません。そんなとき、本書はお役に立つことでしょう。

アメリカの映画のひとこまを思い出します。文章の書き方を教える大学の女講師が、「文章のいちばんたいせつなことは何ですか?」と言つて、教室を見まわしました。たまたまぶらつといつてゐる新聞記者と目があつたので、彼に答えをうながしました。彼はすぐ「正確さ (accuracy)

curacy) です。」と答えました。彼女はすぐ「そうです。正確さです。」と三度言いました。このことだけがわたしの印象にあざやかに残っています。

本書には、例文を豊かに取りあげてあります。これはいろいろな形や特色を持ったさまざま人の文章をお見せしたいからです。例文は古いのも新しいのも関係ありません。どれも文章表現の参考になるという立場から選びました。

例文を引用させていただきました方々、出版社、新聞社には心から感謝いたします。また、引用させていただいた方の勤務先や肩書きなどで現職と違うばあいは原稿を書いた当時のものです。

本書は初めから順をおつて読まなくとも、必要に応じて読んだり、また、興味を引いたところを読んだりすればよいのです。

本書はわたしの文章についての総決算です。新しく書き加えたところもたくさんありますが、つぎにあげるわたしの書物のエッセンスをも取りました。

国語教育ハンドブック 一九五五年六月 牧書店

文章採点 一九五九年一二月 講談社

わかりやすい文章の書き方 一九六一年六月 講談社

話す・書くための常識 一九六八年七月 未央書房

人を感動させる文章術

一九六九年五月

大和書房

文章表現法

一九六九年七月

至文堂

文章評価法

一九七一年一〇月

至文堂

新版 文章を書く技術

一九七二年一一月

社会思想社

本書の編集にあたっては、編集部の亀井龍雄、渋瀬登、田代金治のみなさんにいろいろと助言を受けました。あつくお礼申しあげます。

一九八四年七月

平井昌夫

目 次

(1)	よい文章とは?							
1	文章とは?							
(2)	よい文章の条件							
2	書く目的にふさわしい文章							
(1)	明解な文章							
(2)	統一のある文章							
(3)	調和のある文章							
(4)	よく考えぬかれた文章							
(5)	まとまつた文章							
(6)	簡潔な文章							
(7)								
8	7	7	7	6	6	4	2	2

目

次

(1)	すつきりした、要領のよい文章							
(2)	わかりやすい文章の条件							
3	わかりやすい文章の条件							
(1)	読み手の立場で考えるわかりやすさ							
(2)	書き手の立場で考えるわかりやすさ							
4	書き手の立場で考えるわかりにくくする条件							
(1)	文章をわかる手がかり							
(2)	文章をわからせる手がかり							
5	文章をわからせる手がかり							
(1)	因果関係と接近した偶然の出来事と を混同するゴマカシ論法							
(2)	拡大解釈によるゴマカシ論法							
6	わざと誤解させる述べ方							
7	わざと誤解させる述べ方							
8	わざと誤解させる述べ方							
9	わざと誤解させる述べ方							
10	わざと誤解させる述べ方							
11	わざと誤解させる述べ方							
12	わざと誤解させる述べ方							
13	わざと誤解させる述べ方							
14	わざと誤解させる述べ方							
15	わざと誤解させる述べ方							
16	わざと誤解させる述べ方							
17	わざと誤解させる述べ方							
18	わざと誤解させる述べ方							
19	わざと誤解させる述べ方							
20	わざと誤解させる述べ方							
21	わざと誤解させる述べ方							
22	わざと誤解させる述べ方							
23	わざと誤解させる述べ方							
24	わざと誤解させる述べ方							
25	わざと誤解させる述べ方							
26	わざと誤解させる述べ方							

(3) コトバの意味や論点のすり替えによるゴマカシ論法.....	27
(4) 数字や統計によるゴマカシ論法.....	29
(5) 部分的な論法ですませてしまふゴマカシ論法.....	30
(6) 一部分の例で全体がそうだとするゴマカシ論法.....	32
(7) コトバの言いかえですませるゴマカシ論法.....	34
(8) 無関係な理由をあげるゴマカシ論法.....	34
(9) 押しつける態度で自分かつてなことを言うゴマカシ論法.....	35
(10) 不正確なコトバやウソのコトバを使ふゴマカシ論法.....	36
1 [二] 日本語のアイマイな表現.....	37
日本語の性質からくるアイマイな表現.....	37
現.....	37

(1) 漢字かなまじり文を使つてのことから起きたアイマイさ.....	37
(2) 主語がはつきりしないためのアイマイさ.....	40
(3) 関係代名詞がないためのアイマイさ.....	41
(4) 過去・現在・未来の表現のアイマイさ.....	42
(5) 文意が文末まで未決定なためのアイマイさ.....	43
(6) 受け身と尊敬と可能の言い方が同じなためのアイマイさ.....	43
2 コトバをきびしく使わないためのアイマイな表現.....	44
(1) 数量と順序数との区別のアイマイさ.....	44
(2) 文の中の単語がどれにかかるかはつきりしないためのアイマイさ.....	45

目 次

(3) アイマイな語句を使うためのアイマ イさ.....	45
(4) 助詞をはぶくためのアイマイさ.....	46
(5) 主語か目的語かはつきりしないため のアイマイさ.....	46
(6) コトバをそまつに使うためのアイマ イさ.....	47
(7) 非論理的な成句を使うことによるア イマイさ.....	47
(8) 実感を伝えることがむつかしいコト バを使うためのアイマイさ.....	48
(9) 卑下して言うためのアイマイさ.....	50
考 え の 自 然 な 流 れ	
1 文章を書く心理過程.....	53
2 立場の一貫.....	53
(1) 人称の区別による立場の種類.....	55
(2) 対象に対する書き手の態度による立	56

(3) 書き手の思想傾向による立場の種 類.....	56
1 文脈を早めにわからせる用意も必要.....	58
2 文と文とをつなぐ方法.....	62
3 文脈を早めにわからせる用意も必要.....	56
4 文と文とをつなぐ方法.....	62
〔四〕 文 章 の 内 容 の 調 和	
1 文章は調和が必要.....	67
2 かたよりすぎた考え方.....	67
3 かたよりすぎた材料.....	70
4 論旨の矛盾や主題・立場の変更.....	70
5 平凡すぎる内容.....	71
6 人まねの内容や表現.....	72
7 ひとりよがりな内容.....	73
8 思いやりのなさすぎる内容.....	74
9 節度を越えた述べ方.....	75

第二部 書く手順

1 [一] 文とは?.....	(1) 一つ一つの文をなるべく短く書きます.....	(2) 一つの文には一つの事が入ります.....	(3) 正しい形式の文を書くようにします.....	(4) よい文の基本的な条件.....	(5) 文には論理的な統一が必要です.....	(6) 正しい形式の文を書きます.....	(7) 主語と述語との関係をはつきりさせます.....	(8) 主語がはぶかれている文は、はぶく	(9) ことが正しいばあい、またはぶいたほ	うがすつきりするばあいにかぎります.....	(10) 意味がアイマイでない文を書きます.....
90	89	88	88	87	87	84	83	82	82	82	82

3 文の内容.....	4 文の作り方.....	5 主語がある文.....	6 主語がない文.....	(1) 前の文に出ている主語を受けている文.....	(2) 主語がなくとも意味が明らかであるために主語がはぶかれている文.....	(3) 助詞 "は" の代わりに "では" を使って、いちおう主語がない形になつている文.....	(4) 修辞的にひかえめな言い方が使つてあるために主語がない文.....	(5) "人々" や "世間" が主格であるた	
92	94	96	105	109	109	110	110	111	112

目 次

(6) 事件の発端などを書くときに慣用的には主語がはぶかれている文	めに主語がはぶかれている文	113
(7) 真理や事実や客觀性の強い発言のときに主語がはぶかれている文	真理や事実や客觀性の強い発言のときに主語がはぶかれている文	113
(8) 慣用的な表現のために主語がはぶかれている文	慣用的な表現のために主語がはぶかれている文	113
〔二〕	〔二〕	113
1 段落とは?	段落とは?	115
2 段落の分け方	段落の分け方	115
3 段落における有機的な統一	段落における有機的な統一	122
4 段落の肉づけ	段落の肉づけ	126
5 中心文	中心文	129
6 中心文とその位置	中心文とその位置	132
7 望ましい段落	望ましい段落	137
(1) 段落はなるべく短くします	段落はなるべく短くします	137
(2) 一つの段落には一つの事がらだけを	一つの段落には一つの事がらだけを	137

1 [三] 8

主題とは?	入れるようにします	139
主題と話題の構想	段落と段落との関係をはつきりさせます	141
段落の展開	段落の長さはほどほどにします	142
ます	中心文をわかりやすいところへ出し	145
	ます	145
	段落の統一を保ちます	145
	段落の緊密さがたいせつです	146
	段落の中では主語または主体の不必	146
	要な変更をしません	146
	段落の中では時を変えません	146
	文末に変化をつけます	146
	前後の段落の切れめをはつきりさせ	147
	ます	147
	ます	147
	ます	148
	ます	149
	ます	152
	ます	152
	ます	152

目 次

2	主題の選び方	154
3	主題の出し方	157
(1)	展開法	159
(2)	クライマックス法	160
(3)	小出し法	161
(4)	くり返し法	161
(5)	消去法	162
(6)	対比法	163
(7)	逆転法	164
(8)	消極法	164
(9)	不即不離法	165
(10)	推論法	165
1 [一]	表現の効果	208
1	正確に書くこと	208
2	色・オトなどのように感覚に訴えるコ	

第三部 効果的な書き方

4	話題とは?	166
5	話題は興味の中心	169
6	話題は話や文章の材料	171
7	構想とは?	173
1 [四]	あらすじ	178
2	あらすじとは?	181
1	あらすじの作り方	182
(1)	あらすじ作りの第一の作業	183
(2)	あらすじ作りの第二の作業	183
(3)	あらすじ作りの第三の作業	184
3	項目列挙式あらすじ	185
4	その他のあらすじ	200
トバを書くこと		
3 ものの名まえや地名・人名などをはつ きり書くこと		

目 次

4	感じをうまく表すコトバを選ぶこと……	216
5	言いふるされていない、ぴったりした たとえを使うこと……	217
6	実例や事実をあげての説明……	219
7	権威のある人の説や考えを引用しての 説明……	220
8	具体的な書き方……	221
9	はつきりした書き方……	222
〔二〕	文のさまざまな表現……	223
1	敬体の文と常体の文との効果……	224
2	長い文と短い文との効果……	225
3	文末に変化を……	226
4	文の整然とした列举の形……	227
5	表現の強め方……	228
(1)	述べる位置による強調……	229
(2)	たたみかけによる強調……	230
(3)	強調の明確化……	231

〔四〕	4	〔三〕	1	語句の倒置による強調	…	(4)
	5		2	二重否定による強調	…	(5)
修辞法			3	文末の断定による強調	…	(6)
			書き始めと書き終わり	語順による強調	…	(7)
			書き始めの実際	問い合わせや呼びかけによる強調	…	(8)
			書き始めの力	特別の語句による強調	…	(9)
			書き終わりの余韻	くり返しによる強調	…	(10)
			書き終わりの実際	類似の語句による強調	…	(11)
				独自の表現技巧による強調	…	(12)
				補助手段による強調	…	(13)
					…	(14)

目 次

1 文体とは?.....	2 修辞法とは?.....	3 現代の修辞法の特色.....	4 文の表現の修辞法.....	5 呼びかけ法.....	6 皮肉法.....	7 風刺法.....	8 あざけり法.....	9 対照法.....	10 対句法.....	11 クライマックス法.....	12 引用法.....	13 擬人法.....	14 空想法.....	15 詠嘆法.....	16 疑問法.....	17 くり返し法.....	
264	266	266	272	272	272	273	273	273	274	274	275	275	276	276	276	276	277
277	276	276	276	275	275	275	275	274	274	274	274	274	274	274	274	274	274

(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	3 語句の表現の修辞法.....	4 誇張法.....	5 控えめな表現法.....	6 遠曲法.....	7 毒舌法.....	8 形容語句法.....	9 美称法.....	10 頭韻法.....	11 比喻の修辞法.....	12 省略法.....	13 倒置法.....
277	277	277	277	277	277	277	279	279	279	279	279	279	279	279	278	278	278
282	282	281	281	281	281	280	280	280	280	280	280	280	280	280	277	277	277

第四部 語句と文字の選び方と使い方

第五部 いろいろな文章の書き方

第五部 いろいろな文章の書き方											
〔一〕 描写的・記録的な文章											
1	1	描写的・記録的な文章の書き方	332	(1) 人							
2	2	記録の書き方	332	(2) 動物							
3	3	感想文の書き方	336								
4	4	日記の書き方	340								
5	5	説明文の書き方	343								
6	6	報告(リポート)の文章の書き方	347								
7	7	新聞記事の書き方	374								
8	8	メッセージ(声明)の書き方	360								
9	9	発表文の書き方	388								
10	10	指示(指図)の書き方	392								
11	11	生活文の書き方	401								
12	12	掲示文の書き方	401								
〔二〕 訴える文章											
13	13	コラムの書き方	324	8 (3) 物品・物体							
14	14	筋書きの書き方	324	用語の調和							
15	15	書評の書き方	407								
16	16	添削の書き方	407								
17	17	警句の書き方	411								
18	18	メモの取り方	411								
19	19	ノートの取り方	417								
20	20	箇条書きのしかた	421								
21	21	要約のしかた	421								
22	22	内容紹介の書き方	423								
23	23	編集後記の書き方	423								
24	24	訴える文章	428								
25	25		428								
26	26		428								
27	27		428								
28	28		428								
29	29		428								
30	30		428								
31	31		428								
32	32		428								
33	33		428								
34	34		428								
35	35		428								
36	36		428								
37	37		428								
38	38		428								
39	39		428								
40	40		428								
41	41		428								
42	42		428								
43	43		428								
44	44		428								
45	45		428								
46	46		428								
47	47		428								
48	48		428								
49	49		428								
50	50		428								
51	51		428								
52	52		428								
53	53		428								
54	54		428								
55	55		428								
56	56		428								
57	57		428								
58	58		428								
59	59		428								
60	60		428								
61	61		428								
62	62		428								
63	63		428								
64	64		428								
65	65		428								
66	66		428								
67	67		428								
68	68		428								
69	69		428								
70	70		428								
71	71		428								
72	72		428								
73	73		428								
74	74		428								
75	75		428								
76	76		428								
77	77		428								
78	78		428								
79	79		428								
80	80		428								
81	81		428								
82	82		428								
83	83		428								
84	84		428								
85	85		428								
86	86		428								
87	87		428								
88	88		428								
89	89		428								
90	90		428								
91	91		428								
92	92		428								
93	93		428								
94	94		428								
95	95		428								
96	96		428								
97	97		428								
98	98		428								
99	99		428								
100	100		428								
101	101		428								
102	102		428								
103	103		428								
104	104		428								
105	105		428								
106	106		428								
107	107		428								
108	108		428								
109	109		428								
110	110		428								
111	111		428								
112	112		428								
113	113		428								
114	114		428								
115	115		428								
116	116		428								
117	117		428								
118	118		428								
119	119		428								
120	120		428								
121	121		428								
122	122		428								
123	123		428								
124	124		428								
125	125		428								
126	126		428								
127	127		428								
128	128		428								
129	129		428								
130	130		428								
131	131		428								
132	132		428								
133	133		428								
134	134		428								
135	135		428								
136	136		428								
137	137		428								
138	138		428								
139	139		428								
140	140		428								
141	141		428								
142	142		428								
143	143		428								
144	144		428								
145	145		428								
146	146		428								
147	147		428								
148	148		428								
149	149		428								
150	150		428								
151	151		428								
152	152		428								
153	153		428								
154	154		428								
155	155		428								
156	156		428								
157	157		428								
158	158		428								
159	159		428								
160	160		428								
161	161		428								
162	162		428								
163	163		428								
164	164		428								
165	165		428								
166	166		428								
167	167		428								
168	168		428								
169	169		428								
170	170		428								
171	171		428								
172	172		428								
173	173		428								
174	174		428								
175	175		428								
176	176		428								
177	177		428								
178	178		428								
179	179		428								
180	180		428								
181	181		428								
182	182		428								
183	183		428								
184	184		428								
185	185		428								
186	186		428								
187	187		428								
188	188		428								
189	189		428								
190	190		428								
191	191		428								
192	192		428								
193	193		428								
194	194		428								
195	195		428								
196	196		428								
197	197		428								
198	198		428								
199	199		428								
200	200		428								
201	201		428								
202	202		428								
203	203		428								
204	204		428								
205	205		428								
206	206		428								
207	207		428								
208	208		428								
209	209		428								
210	210		428								
211	211		428								
212	212		428								
213	213		428								
214	214		428								
215	215		428								
216	216		428								
217	217		428								
218	218		428								
219	219		428								
220	220		428								
221	221		428								
222	222		428								
223	223		428								
224	224		428								
225	225		428								
226	226		428								
227	227		428								
228	228		428								
229	229		428								
230	230		428								
231	231		428								
232	232		428								
233	233		428								
234	234		428								
235	235		428								
236	236		428								
237	237		428								
238	238		428								
239	239		428								
240	240		428								
241	241		428								
242	242		428								
243	243		428								
244	244		428								
245	245		428								
246	246		428								
247	247		428								
248	248		428								
249	249		428								
250	250		428								
251	251		428								
252	252		428								
253	253		428								
254	254		428								
255	255		428								
256	256		428								
257	257		428								
258	258		428								
259	259		428								
260	260		428								
261	261		428								
262	262		428								
263	263		428								
264	264		428								
265	265		428								
266	266		428								
267	267		428								
268	268		428								
269	269		428								
270	270		428								
271	271		428								
272	272		428								
273	273		428								
274	274		428								
275	275		428								
276	276		428								
277	277		428								
278	278		428								
279	279		428								
280	280		428								
281	281		428								
282	282		428								
283	283		428								
284	284		428								
285	285		428								
286	286		428								
287	287		428								
288	288		428								
289	289		428								
290	290		428								
291	291		428								
292	292		428								
293	293		428								
294	294		428								
295	295		428								
296	296		428								
297	297		428								
298	298		428								
299	299		428								
300	300		428								
301	301		428								
302	302		428								
303	303		428								
304	304		428								
305	305		428								
306	306		428								
307	307		428								
308	308		428								
309	309		428								
310	310		428								
311	311		428								
312	312		428								
313	313		428								
314	314		428								
315	315		428								
316	316		428								
317	317		428								
318	318		428								
319	319		428								
320	320		428								
321	321		428								
322	322		428								
323	323		428								
324	324		428								